



関東奥氣物類
古方佳薬
四

伊13
2-679
4止



門へ柳13
2679
巻 4止

神

櫻山文庫

同春

詩賈堂

牛五を糸極勇の本
牛五を糸ハ中橋本所乃生入
主仕海山成入強の
そのあり相店一喰いその代那と
いふ大生酔乃
を青出た酒の上大それたの
先きく克の悪者ハ
くうけく右あひやうん
と己ハあつを晴一のり
が
あ乃悪事いし人回し
も成小此君増れいし人者
有し小此那をのあそれ
もの大酒乃飽し酔犯起り
右の内一切を理守解し
此女房借りとけとく
けちる
亭をとおるきまうる
成二三間投のゆる
化那をの母是ハ
狼藉せとるつさ那
むれし生酔工といふ
り此化那
言出しヤセー本反
るふすくもや女房借
らぞめん
どうありやれらとせ
らとらんし打酔後ハ
夫婦

二人老女も小大ごぬへ踏込りり少く分りす底と
射く人とおおれりくを射ると志る人牛五糸目志之
糸糸落しと悔しと是とアとく死るるさくひんて我
細切しとたりり心おとる母ハ正法成者は其あ
多とけおれ少く人おいつめよと免死法之佛神さん
がくよんを亂さ道から悪事作人一人の妻一のを返
不義母我一と理おそ私つと底中せり皆く換り
信ちと道入りと弟成敷しと成中事目系少くはたか
子成持入りと因果と存せ免とく亦仕と成へさか
恥辱、我不便と存りと五糸及を私かくの仕合ふ人
此後何ふ少と弟と成極へ信ちと道下されく人
髪と切此後をたのしと無使無く道志の一件一回
母の中分性お水ハ死骸行お麻りり母小と金子取集
合力しと田舎乃とる人お是もお麻人寛文六年
牛五糸十八女の時あり信ちと是か一人當千の者
子此とく、ち信年めと糸と無意いしと富家乃仁
唐物乃拂物多くと賞込ヤと此る、と白紙中両所奉り
うりの亦使りよと少く回ん流あ人連少くと来り亭
長崎乃拂物調中人、と唐物の事小つと、此地佛金
あり許人の者有儀お水ハ對決ハ所由所少と
并魚し亦法あれを健とる、と信ちとく、とく
亭とを神意下代へ健け、のりおふ、と糸
や、と成軍とく、おひと糸お、是ハ何事とて
佛隠密の信ちと道少くと信ちと親族中一ハ

母の中分性お水ハ死骸行お麻りり母小と金子取集
合力しと田舎乃とる人お是もお麻人寛文六年
牛五糸十八女の時あり信ちと是か一人當千の者
子此とく、ち信年めと糸と無意いしと富家乃仁
唐物乃拂物多くと賞込ヤと此る、と白紙中両所奉り
うりの亦使りよと少く回ん流あ人連少くと来り亭
長崎乃拂物調中人、と唐物の事小つと、此地佛金
あり許人の者有儀お水ハ對決ハ所由所少と
并魚し亦法あれを健とる、と信ちとく、とく
亭とを神意下代へ健け、のりおふ、と糸
や、と成軍とく、おひと糸お、是ハ何事とて
佛隠密の信ちと道少くと信ちと親族中一ハ

り、同軍と何有、或はかく隠密の事、金銭上、
此れも不信任、半て折棄成不也とのめ、
折口ぬすといふも、其れを十、
はる、其れを、
か、は、
同、
敵、
あ、
流、
何、
か、
任、

あ、
り、
と、
成、
首、
死、
折、
成、
余、
と、
言、
心、

敵も人姓古来稀なり海者此の出生の中極少
果しく

楠瀬庄系兄弟との要後追治の事

常陸國下妻、楠瀬庄系ありおむり二帝をとり
とりのそのの曾孫をせし者あり是ハ首の多賀
首を更下妻と領せしむ一國あり此の相續、念言の
由法有六百村乃仁士く志あり下妻を別て年々
悪徒分奪しと軟打の海盜甚と人民日加盜賊
退屈しと難儀甚しく此に戸長申公儀（上妻）と
款言しよりおむり楠瀬庄系首を不親に成
を討はり世との款をありし佛神の教も皆以人と

助ると行くとおむりくく海盜の悪賊めり我々曾て
あふと色國をそとこしく追治し人民の助と人
おむり目とある多勢の盜賊あり此より年々ハ
かつと大概中合ふ打しせん事必定くおむりゆり
せんとおむりひそふに戸一を奪り御儀一住進の款
祈追治長くと新状お徳を年別しと軟打乃
海賊おひさしとくおむり百村寺院難儀仕儀之
御住進中より右盜賊お者おふと御儀をく追治仕儀く
読人の救のとおむり世と御儀をく新に御儀御儀様より
御儀人言御儀をく世と御儀をく御儀をく御儀をく
ととハ元より祈と御儀をく御儀をく御儀をく御儀をく
安房守及軍古を成事也御儀をく御儀をく御儀をく

やめしむしき百足子をかへしむ向ふ悪徒ハ打控よ致とて
るト切しむ何扱少も出珠し相ふりりやうはら
魚しさて悪徒も小只やぬくの儀ハ御之成を向後ハ
盗賊・殺打込切ハえりす理ぬ儀一切はる及し中軍也
あふ小者ハえしむ向ハ捕ハ一戸ハ登官舎とふし
取陰少也及強くも向ハ強盗とハ切しせしむ上中
をり小余不と強ハ切しむ誠意系至剛心す成しよ之の
との多申少也ハ指市系花田の羊之とく昔の曾者も
おとぬ物乃そ方の者もし市系いし親親の方す
一宿一人遠少く右の腕と流す小廉入を居しゆし
切意されたの統しり成しやるり花鳥のこし
こふ力も勝し強しふき奇親の生ぬ者し

誠しそ人當千そくも扱いらくも花田の羊之も
生けしる曾剛成者く扱指金七と中者の親もかた
打の境見し十八日の時羊之あつてハと物も江戸
六ふりし小く切伏金七と打せり者く是ももや死す
木の上は登りす木を袖し切意しせ木の枝よりあく
花下り中もそ外に系親親何義曾強く強た系
此儀し付十石余田化を入用しをそもも私ふく悪徒乃
隠し者ハ所を知せし者もそハ庶家義とを人かきし
んやくも川よりり字よ強盗一このたぬし系強盗と
中者もよくた系足身と打盗賊とものんとはり人
初しし此もた系軍出此言少もふりり此ハ小毒の
大室のハ幅乃系りりし系強盗とを系人なり

よの有ぬく去るゝ取付とくんと二三万投お取銭
大根乃去ちる後より思然武を去るひいと能く去る
まや川邊人の大おそ我らもく切とりと能く去る
くとも去ちる能く去る武を去るのたると大口よりと
かゝる能く去る能く去る元のつと物少く持て去る
切くも能く去るよ能く去るもの武を去る切ると伏
まは武を去る能く去るもく切ると能く去る
市を去る能く去る少くハ人の者を十るもく切ると能く去る
羊三ヶ身く切伏追拂ぬく、よのつと、去人切殺
いふも能く去る思然も能く去るのやつと、よのつと、天命
ほく、かくのこく、思然も能く去る、よのつと、小川乃
に去るとが、いふ、花田のよのつと、能く去ると

小川に去る能く去るおとらよは之後よりむつと能く去る
かゆ汗掻つとく、思然も能く去る、よのつと、能く去る
二万余のよのと能く去る、よのつと、能く去る、能く去る
に去ると、思然も能く去る、よのつと、能く去る、能く去る
少く去ると、思然も能く去る、よのつと、能く去る、能く去る
大兵の大らと、思然も能く去る、よのつと、能く去る、能く去る
小川に去ると、思然も能く去る、よのつと、能く去る、能く去る
火を去ると、思然も能く去る、よのつと、能く去る、能く去る
よのつと、思然も能く去る、よのつと、能く去る、能く去る
ありと、思然も能く去る、よのつと、能く去る、能く去る
かゝる能く去ると、思然も能く去る、よのつと、能く去る、能く去る
よのつと、思然も能く去る、よのつと、能く去る、能く去る

んとす、残葉を、まゆ、其に、まゆ、生ハせ、
ふ、まゆ、あり、まゆ、我、まゆ、まゆ、まゆ、
吾、人、と、呼、命、地、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、
呼、集、命、地、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、
まゆ、有、命、人、数、二、三、人、打、連、小、川、に、まゆ、まゆ、
あ、り、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、
まゆ、まゆ、に、まゆ、自、言、まゆ、まゆ、まゆ、
乃、まゆ、まゆ、い、まゆ、盗、人、まゆ、まゆ、
悪、流、夷、の、まゆ、まゆ、回、源、五、板、本、園、自、坊、まゆ、
大、お、まゆ、言、坊、まゆ、乃、大、力、凡、二、拾、人、力、まゆ、
まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、
悪、徒、追、治、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、

御上聞達——
御上聞達——
御上聞達——

安井兄弟石川源右衛門の事

石川源右衛門安井教右衛門と、小幡源右衛門の、大田原組の
与力、石川源右衛門安井石京屋家中より、養子、まゆ、
まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、
余、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、
まゆ、の、通、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、
而、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、
根、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、
内、院、の、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、まゆ、

市親父のたのまやされぬ由、吳屋主人御軍でぬ、之を恨
み、余乃不針人、事多、此さ人、人の出合、こも、採用、事、此、是、て
こ、た、た、と、ち、中、に、れ、り、つ、残、りの、者、人、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
的、の、出、合、よ、丑、帝、と、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
言、る、ハ、残、念、し、人、こ、い、ろ、く、是、見、中、に、人、あ、り、ぬ、の、世、伴、者、人
あ、り、し、し、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
吳、見、中、に、人、あ、り、し、し、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
た、う、と、り、し、し、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
せ、よ、教、を、な、り、ぬ、る、ハ、破、家、と、い、ふ、よ、の、口、上、ハ
場、者、の、い、ぬ、る、く、只、今、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
討、と、ぬ、れ、ぬ、と、い、ふ、え、より、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人

及、つ、と、や、こ、と、さ、さ、り、答、せ、ぬ、さ、人、あ、り、し、し、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
あ、り、し、し、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
あ、り、し、し、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
い、し、し、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
中、に、れ、り、し、し、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
い、し、し、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
吳、見、も、た、の、と、ぬ、中、に、人、あ、り、し、し、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
い、し、し、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
教、を、な、り、ぬ、る、ハ、破、家、と、い、ふ、よ、の、口、上、ハ
中、に、れ、り、し、し、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
あ、り、し、し、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人
巧、も、と、ぬ、中、に、人、あ、り、し、し、源、を、つ、何、方、一、つ、い、こ、の、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人、一、あ、ま、あ、り、な、れ、ぬ、く、人

打果尸一くそそ及兵法の師とせしむるもきやつのも人説乃
る故かこのころ乃本那れも是飛と也打り打り運
由とせんも教をたすしめ打連くちある源も河井十兵衛
り小宰人の所六方ノ成あふん早揃十兵衛と志宗
有残ともおひえ二十二年堂の前ふも乃方指合致し
いしあもや唐を源と切伏る教も十兵衛を打
そめ由くこくち退る源も河井子も乃一治池
十兵衛の河井権を更しり小者あり見十兵衛より
有したのこれ打もつしあもつしれあれも是の敵は
安井足利と討合すとありしは是を退はれ打を更
刀も強く切少く敵討人小宰人少く敵の心付い
あり町家一南一北一里一里と見を有る魚一と

右と白比三兵衛と名付たり是は安井足利の惣所ぬ
ゆれをかせこれよりん為んと付しり初り有るし
安井足利と志と討合たりたりし敵を安井とゆ
いふゆとゆとて討合すと心付かりたりゆり
ある者中ハ安井足利ゆり山ノ下何系乃や一乃
矢場ノ事當日大塔と物ありんゆゆゆゆゆゆ安井
足利と志とゆゆや首尾もハ一もゆゆゆゆゆゆ
たはゆゆ白比一志と志のふと志ゆゆ一と一礼
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
安井足利指合ありゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

さやうと攻せし朝諒のむきき笑止ありかくとくあり
之をいふ不運のふしき世ぬびんあり此は延宝八年
吉原に浅湯より出火敷中より燒止す江戸側
西河原より焼火入遠大さなり此れを
尺舞足箱といひて焼し群集し世を記し
吉原へ火あき言ふ人迫ふて敵ふ心も
ありし女帝と別條のむききかくして四つ時より
足下と海夕方衆を魚しと大音寺前の方へ田舎
かたりり安井兄弟も夕夜ゆき出火三たん
衆魚しと考へけり田舎山と安井兄弟は
四人衆後より反り記し三たん女お小兄弟
足敵と記しと軍勝負せんといふ三たんより

あけし本の娘しやと被合くかろ衆後よりあり
こしや唐土の細切り細きくを騎打くむきや
三たん衆と御けりかぬり打もき吉原に
煙のうらりありあれくともう小安井兄弟は
このあけく有く三たん衆の意なきたの
事くおききりなりやと事ふハあし
討せしもの事并足背たしぬきハ
りり十九の節よりやと是ハ足敵と討んと
を記し有しゆり打し是ハ足敵もぬしハ
男成や常の田舎山と建切中合し者ハ
りり流ししるるしりける者しと女帝の
叔見よりあきとて捜使し信りハ女帝乃

後吳十九の段せりりあふ山由人信年十九の年
是月と京都小く晴負也人とあふけりり七開の
もや立退りりけはるかのこく乃とやとあく小と
有り

小山田信市ハ宰人ハ成シり大割謀ノ者シ言ス

小山田信市ハ宰人成り大割謀の者言
こは儀を親吉の塩田南にこは成り非人村喜の
人村神乞一持り足收軒の者ト成り一信市
通遠におしき人相の者ト邪不便とく浅而投く
今非人難有といふくあふこころは信市通ぶら

こころだしき者ト邪と又多目而又成り通ぶら
通ぶり非人信市ト成りハ難きひ山やあふり信市
人通りのなきと記間を成り合り非人ト成りひ山ハ信市
生也トハ成りを成り成りの國ハ有るを成り成り成り
仕換とおひよ者成り成り成り成り成り成り成り成り成り
と成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
と成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
我宅何く成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
丁魚く成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
いふ成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
く成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り

非人々をいへりて也。之を過りて成しぬ。此市非人。其心
のそや何言ふとてんかまし。と。おのそく収し、我は
時あり。云ん人と吉原へ回るす。其時八つのはか。成
挑打の致少く、我も同を。と。田甫とゆふ。と。其時
ゆふ出く。切け。と。桑枝合。ゆふから。と。一石口合と近
處。と。と。六の。客。及。我。ホ。御。あり。と。と。と。と。
世。成。こ。も。ひ。相。お。つ。と。と。子。此。人。の。傳。承。何。と。と。あ。じ
と。事。と。と。葉。内。ハ。能。好。人。と。由。也。と。と。と。や。と。田。甫。打
へ。や。と。と。と。侍。右。と。と。ハ。つ。時。分。此。市。を。多。出。雲。吉。と。の
之。四。人。連。少。く。田。甫。と。と。と。と。事。と。と。か。の。傳。物。と。と。と。
切。る。此。市。友。と。と。此。近。と。と。と。板。合。打。と。と。か。く。る
傳。中。合。の。こ。と。と。一。石。口。合。近。處。と。と。あり。と。と。と。此。市

端。人。と。一。折。と。切。た。と。と。一。実。在。と。と。と。通。り。と。と。
と。
傳。切。道。と。と。伏。居。と。と。人。相。も。替。り。非。人。の。傳。と。と。成。と。と。と。
お。ひ。と。
と。
此。市。と。
出。雲。吉。と。と。い。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
か。と。
事。中。と。
仕。切。人。家。と。
と。
鬼神のや。と。

流し金子百両出し多むり此後古者即ち流し金
流し金切殺し金子配りしと稱の流し人形
小く尋常に水皇罪科少敷成りたる

流し金切殺し

流し金切殺しは、頼店之とく之に三此大切れ
其の有り日亦乃益松部高とりふに増礼波り
店之既敏しありありせの酒肴持参ししたる
世に水切せし而法度編迫り人二三日とてのり
乃部高兄富田屋長と右合世居の御觸乃上と
乃方の小先いり成ハ流し金にせり一問答し及ん
引分り人聖日部高の家業乃用事人て矢の爲一
海り人而流し金所を下目し店之待伏いしして
吸の酒肴流し金も是なりとく大装束衣し切し
互近せれ切しと呼ふ人附たり番人指を鳴り
店之とくいり成ハ流し金にせり一問答し及ん

神田川の船宿より東國戸をへしをせんたつとやうく
足利の名代者とも云ふなり。れがれなるは此の年か
といふ所より舟を川へ下りて向ふ乃ぞう河を所なり
向ふ所より舟を川へ下りて向ふ乃ぞう河を所なり
舟より右の晩歩新戸をへし歩行者とて此の
年月より一より一歩行者とて此の
舟より右の晩歩新戸をへし歩行者とて此の
年月より一より一歩行者とて此の
舟より右の晩歩新戸をへし歩行者とて此の
年月より一より一歩行者とて此の

こゝろと能くわたりてありて世代より一より一歩行者とて此の
年月より一より一歩行者とて此の
舟より右の晩歩新戸をへし歩行者とて此の
年月より一より一歩行者とて此の
舟より右の晩歩新戸をへし歩行者とて此の
年月より一より一歩行者とて此の
舟より右の晩歩新戸をへし歩行者とて此の
年月より一より一歩行者とて此の
舟より右の晩歩新戸をへし歩行者とて此の
年月より一より一歩行者とて此の
舟より右の晩歩新戸をへし歩行者とて此の
年月より一より一歩行者とて此の

りりそとてはさうれ出さる所々、梳町六丁目小く八郎を
店々之口合向ふとハ市東の人と成や川と被下
切りのとる庄之助命の折糸ありと被合く大花を
りりこ切を多く元ハ庄之海際を此を打きし法
をりり成なる所ハ鴨借をうけたり故なり庄之口
庄之ゆりなりと借ふと切なりハ市東路也とく庄之
らとの説はすんと切く是なり人を記すぬく切伏
并連え退しよりいひつゝ、庄之、無脚あり仕下り可也
とよとあぐらりしを皆心内の内ハ悦び此より新戸
上人捨使口書ハ餅相市合儀ハ成此切道一者無脚
此編此より人眼指鼻儀儀儀ハ金子あり何事ハ情實
并ハ男たてと申有候べき意証有と切道事なり

是ハ市東路なりては船子の者由呼ふり此市東儀儀は
不述お初此戸一人とく梳町ノ名とゆふに五市
無事石も奉切十市無りて此ハ梳町六丁目小く切道
申有候との少やを切一者此儀儀ハ一戸より少くあり
仁五市川と存たてとる是をPとすハ市東路ハ市東路
川とる志はハとくハ市東路と申す此儀儀の梳町乃
ハ市東路小く市東路田舎よりく新市東路P人と新
出るも市東路仁五市東路市東路成は成とゆふは
刃市東路ハ市東路庄之と仕あり也と退すは市東路乃
新儀儀と申すハ我儀儀ハ市東路と申すは市東路
出方と申すハ市東路を流云儀儀ハ市東路の
皆ハ市東路ハ市東路ハ市東路ハ市東路ハ市東路

相たのこもる念ひさしきし我由之辨の世も
亦我の元身ハ才一節は度と背水ひせの既右に
浅草寺あふく人を切殺述べあむ者の神人少く
佛さん此経しあむ人し一節及の候に皆と候に支
られして世か入るまがし相厭て中亦乃さぬも
悪人と通治仕人若く物しハ節あふくも此れが
切中しつて事少くハ何ゆへ切りし中節味入促す
りしと成りし人れ又胃とたし衣宗せしハ底も
不便し居る人し押付御前ハあかりし物者て中
定くハ節あふく尋て救ふれしハ節あふく
者浅草の中人者少くあむ人れを救出し賞あり
んしし少く度とあむ人皆んしハ節あふく中人

先日の喧嘩あむ人あハ田舎ハ物家又舞の儀あむ
そ誠ハ少くも相違あむ人常くさふ救儀しし者
少くハ言はれし此者あハ節中を急いらくあむの
者し人とて中人しそハ節あハ元より皆し一回し右乃
通者商人のこしハ節あ少くあむ今度あ
此儀出来ハ節あし中者あむのしハ節あ及外軍あ
字の毒しはあし何もあハ節あハ節あハ節あ
し下し少くもさし口上一支はあしハ節あ通
た之々旧あししあむのあしと成屋くハ節あハ
相立してあむ中人皆し乃あむあし少くあむ
皆し聞せししあむ中人切ししと一回しハ節あ
あむあむあむハ節あ人あむあむあむハ節あ

あの者もあつた自る宗とせしつゝ十部宗もあつた有ゆへ
 中より十部宗もあつたやさう少くハ世にわく人候中合の
 通へいぢくPに水ハ八部宗も町人一回ハ汽波の八部宗と
 P者少く候もなほあつたやと一丈しとP上人各重て候
 此故に汽波と候く中合Pハ世にわく者ハ汽波
 所務所の類に之とP者少く候き人去々年汽波
 度の水あひせ仕、を候し付人とも切近して汽波
 びしとびぢぢ人、考者考よお遠あさふく人の
 切近しともの、考り候しハ一敵中のかうい
 Pハいふと年之月所務所の新乃所務所
 所務所考り遠あつたやとP考りふれハ総所
 町人十部通に相違なく一連判しと上P人中

此故に汽波人十部宗ハ八部宗も所務所仁王十部宗
 所務所と候の酒の、を候しと候しと人候傳へ
 此考り考り候少くハ八部宗と一考り所務所
 出さる事考り候しとあつた十部宗考り候しと
 考り候しと候しと考り候しと候しと候しと候しと

生不勤とあつた事

生不勤とあつた事と考り大曾宗考りあり一傳田平考り
 三つ考り候し考り人考り候し考り考り候し考り考り候し考り
 考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り
 考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り
 考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り
 考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り考り

理屈ありふと志川くは是派ありとありてある
魚一、只今より必は、和梅入一、二、およ一、世眼持
備うと、おと、あ、くも、ち、し、か、く、を、津、田、平、を、文、を、り、し
之、理、者、少、水、此、方、も、也、利、銀、し、勝、と、ん、ほ、く、世、海、派
常、魚、し、と、く、孫、六、通、元、の、腰、乃、物、と、あ、く、り、と、あ、く、
大、ま、い、と、み、身、と、捨、く、と、利、乃、銀、の、而、一、句、乃、
と、一、一、中、ま、く、世、水、り、平、を、文、の、龜、丹、戸、り、海、
而、我、得、く、け、難、く、お、り、を、一、平、を、文、の、首、と、あ、く、
風、呂、交、り、包、く、く、中、閑、心、方、一、切、一、小、る、も、心、亦、坂、
閑、心、の、極、ひ、居、人、而、く、泰、呼、出、し、く、首、と、ん、色、れ、れ、
以、く、平、を、文、一、人、一、お、し、く、中、り、閑、心、の、事、海、派、
伝、ひ、か、い、く、世、水、り、世、通、元、の、め、く、と、く、り、と、り、

世、水、り、と、あ、く、く、一、誠、乃、利、銀、の、高、を、ゆ、り、
人、と、用、事、く、生、不、勤、と、あ、く、く、一、大、通、者、一、誠、
無、忌、昌、才、家、府、く、一、く、た、心、の、才、り、一、心、一、才、
せ、いた、り、る、あ、く、く、一、く、一、く、い、一、く、少、の、り、
小、ハ、前、不、勤、者、と、り、者、出、く、捨、投、い、し、一、く、
中、山、勤、解、中、心、の、目的、一、流、條、傳、之、子、柳、條、完、心、
言、余、く、く、口、論、一、柳、り、と、一、流、り、下、一、投、底、了、親、の
や、り、併、得、之、大、ま、い、く、一、く、生、不、勤、と、あ、く、く、思、く、い、く、
取、ま、也、却、解、由、取、一、新、中、と、人、の、捕、人、を、り、心、の、
世、水、り、不、勤、と、り、く、一、く、捕、り、り、お、ぬ、一、不、勤、と、あ、く、
吉、尔、一、切、取、つ、け、の、り、一、年、く、同、心、流、川、連、通、不、勤、
そ、成、年、女、帝、到、と、西、河、原、の、方、一、切、取、り、お、ぬ、く、と、

捕人の流遊すふくから不動ハ如个竿の有しと
石く塀と花丈まぬの中ハ如个竿とひとひとく
ひつりし花残ぬくくろくろの湯にも日ん流もどひい
二如乃名西くまうくせんも如くと糸と成り物
ありて糸糸小くハ如くや百餘さくよ同んそと体め
くし文うううくふいしと打矢をかきてもかいて
今記帳かゆくく少く病字身捕まてく罪科小成り
りり

金神長五郎たけなごの事

寛文のころやうく長五郎有名人江戸乃五番
若狭十島城ハ肥後の大守より御扶持首次載

いし樂こと老とてくく此十島若き時ごうくの
セ川橋渡此二後元神田乃金神長五郎こけ
十島く打うけの借し人月十島く宿一糸何やうく
かうく二酒とく乃我少く語台セ度く備るのうしと
中十島ハハ意ゆる人りもや長五郎り田乃か
五中十人家の有る也十島く如くあひし中軍す
魚くハ首級ははく我求く身が成侍ハ一此長五郎
押身まくなんくく成及くくくくくくく
やうくく中セゆ大勢よありん也一く此金神長五郎若
何うく四十余もく喧花いし人いあられとさう
よあしとあしハ一我あつたハ一悪者成りれハ金神
畏名と付し宿しやうけんてんハハ五六也小く是也

親元不着尾小と十とあるは、冷飯水と世に伝ふる金神の
P 本、浅草とく七五節を糸の中へむしりて、
此の十と糸と流小と當分そと存し、ゆと世右の合意を
いふ。お麻中へうや、かひく、中平也、場明りく、只今
そ、友のあ、中、のう、あ、首、残、流、あ、く、待、け、く、と、ハ、中、遊
我、亦、も、若、き、もの、事、し、之、か、く、ハ、あ、あ、中、り、ハ、七、五、節
いや、く、是、あ、く、く、不、存、成、い、い、か、い、い、ハ、あ、あ、中、遊
中、遊、い、く、中、り、く、之、あ、の、重、く、何、卒、仕、上、ハ、七、五、節、の、二、五
節、く、れ、と、り、子、時、く、七、五、節、と、く、ハ、世、を、相、く、せ、ん、と、
り、よ、之、を、聞、く、け、上、く、是、世、か、い、い、是、し、有、合、ん、こ、と、
何、の、至、く、さ、く、と、相、く、成、り、い、さ、く、く、頼、頼、の、眼、指、を
さ、げ、く、ち、あ、り、り、長、五、節、ハ、之、あ、つ、く、成、た、の、も、ふ、と、ひ、い、
つ、む、時、く、之、あ、の、何、節、く、略、有、と、す、る、成、り、い、さ、七、五、節

茶師、堂、前、あ、る、魚、い、こ、り、小、馬、島、所、の、茶、師、堂、あ、る
ま、く、之、を、か、き、の、や、は、小、く、ハ、極、く、反、投、入、出、つ
く、さ、い、い、と、い、ぬ、い、く、け、く、と、り、子、長、五、節、ハ、あ、あ、あ、あ、必、
近、く、か、く、成、り、成、り、と、対、之、を、あ、免、め、く、場、面、の、入、へ、
や、少、く、被、り、切、け、る、も、あ、あ、ハ、集、鞘、の、二、人、四、五、寸、有、り、
お、残、り、ぬ、き、拂、切、あ、あ、あ、あ、之、を、あ、あ、あ、あ、切、け、る、之、を、
左、の、も、を、指、指、す、お、残、り、七、五、節、之、を、あ、あ、あ、あ、切、け、る、
切、け、る、ぬ、き、踏、込、ん、く、七、五、節、ハ、有、え、あ、あ、の、ぬ、き、
き、り、込、り、あ、あ、之、四、寸、五、寸、大、く、残、り、あ、あ、あ、あ、
大地、く、す、り、り、り、り、此、く、と、平、け、く、留、ま、の、あ、あ、
子、の、を、あ、あ、あ、あ、ハ、あ、あ、あ、あ、無、垢、の、遠、人、く、成

支合 五並おーして皆中並し取持の面くP人元来此
喧流の勢りハ片紙十人金子信月まゝいゝ人より
事出まゝとるれハ七五節六分の理とP人ささる年七
上の長五節とハ金神五並と云へりP人ささる人
五並りてこれ一回ハ此喧流の一件太平ノ樂酒香
中居く人ささるP人ささるP人ささる也七五節一
ささるささる之等五並の言ささる七五節向ハ五並と
押ハP人ささる五並と皆く友達の方ハささるいれ
ゆゆゆとわ切是ハ音取之此残生一とていれん
海ど打果せし友達ハ不立七五節運のわくとささる切
ささるささるいれん店ハささるささるいれん
ささるささるとP人ささるささるの聞ささるかささるいれん四
年もささるささるささるささるささるささるささる
それハささるささるいれん胃伝達の仲るささる七五節いれ
相持し切合ささるささるささるといれん中ささるささるささる
ささるささるささるいれん朋友の義理ささるささるささるささる
十文字小切ささるいれん海雷の音ささる

右の目録傳傳と云ハ其振ハ奇詠の目録傳傳と云ハ
別くハ其傳傳と云ハ其振ハ奇詠の目録傳傳と云ハ

附録上巻

夏の市而歳六十余乃比上野へ参詣せし小大佛師乃
是乃之し中者面白き才也其高五号三寸と云ふ遠江
也其下迄のゆる寺へ参りて大き哉特賣神なりと世
に伝ふる事よといやりの佛師の女而買成りて其
物也之入あけ佛師も此と大崎屋師より内會
物賣乃才小舟田村へ成廣く乃所人たよ難儀とい
ませし者し右の寺へ皆く居合人者も亦り即ち
むくの世の世の蘭天より而へ大小の神祇經七八人
是れ此物賣おとく學者なるも此佛師の所なり
我の意趣ありし者くかあわるる也少くも仁道く

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

ゆゑに、たたら、志保、小幡、中津、せき、しん、ふ、く、と、く、あ、る
時、市、命、意、中、や、あ、れ、く、日、ハ、是、非、事、ふ、あ、ひ、も
う、た、た、ら、く、さ、せ、り、れ、あ、り、し、道、の、の、連、と、り、あ、る
た、た、ら、く、切、り、と、ん、種、を、あ、り、し、た、た、ら、く、の、や、ま、ん、悟
せ、し、我、し、け、く、ま、れ、く、中、七、八、人、の、神、祇、組、し、向、く、日、の、前
り、管、あ、り、と、下、さ、れ、へ、く、也、志、保、り、管、を、あ、り、し、是、非、事、及
あ、り、し、た、た、ら、く、道、連、り、と、り、神、祇、組、と、り、年、會、
お、の、れ、た、た、ら、め、の、年、も、生、く、後、を、親、仁、と、同、じ、し、て、仁、合
親、仁、と、お、め、と、り、と、り、是、り、く、た、た、ら、く、を、連、り、と、り、事、と、あ、る

卷の続乃、吾、た、ら、く、男、作、道、の、戸、守、也、中、せ、し、希、く、海、見
十、た、た、ら、く、は、じ、し、の、角、口、あ、あ、り、の、や、く、し、中、く、れ、く、

大、じ、し、の、徳、組、と、り、者、と、切、合、指、張、切、あ、れ、く、道、と、
ひ、く、ま、ら、く、す、ひ、の、を、あ、た、ら、く、と、り、角、口、取、喜、た、ら、く、道、院、と、
志、保、川、の、ハ、ッ、山、し、を、あ、た、ら、く、と、切、控、道、と、り、年、會、(、
吹、田、を、命、た、ら、く、と、り、あ、た、ら、く、と、り、坂、陣、乃、高、主、出、た、ら、く、小、幡、と、り、坂、
不、敵、あ、る、ま、れ、の、者、乃、を、た、ら、く、と、り、志、保、ハ、ッ、山、と、り、し、し、
中、く、し、ら、く、坂、山、を、あ、た、ら、く、と、り、密、跡、を、あ、た、ら、く、と、り、中、せ、し、
道、り、希、代、了、し、の、を、た、た、ら、く、と、り、中、せ、し、神、田、の、目、屋、傳、也、
日、傳、く、吾、た、ら、く、来、く、是、ハ、唐、之、流、乃、出、出、り、の、傳、也、お、と、り、
伴、達、も、あ、り、し、く、但、も、拍、子、ハ、ッ、山、吹、乃、之、社、の、院、定、ハ、我、
あ、ら、ん、と、り、子、皆、む、と、り、し、し、と、り、年、傳、り、

寺西圃の吉原山より吐者小用之走之終（駒形）居
中尾崎新五郎としか兵者穿人下大洞守二人
とて大過切の喧嘩師人といぬてくおりか者り
走れ走（事）圃心々武勇立百目乃大刀を返る見
是ハ誰の刀そとり小寺西圃心の刀乃がし中尾
深心の水をひくた痛く呼ぶ二人とハ在り
尾崎新五郎圃心先夫久成刀少く此方おもた
入圃心ハ誰人とも暗し圃心の輝吉ニツク
下渡治少く此方とて一旅と一夜と首二ツ宛
圃心とつと喧嘩をいへる尾崎も大洞もさ
事始一と通しとらう後走是ハ吉原少く寺西圃心
情實乃備えりりく守多神祇社乃鐘楯半と

切し松平新五郎中山初解中夜と切し何月
衆の多く情實を打て仕合ありし駒ととて寺西
圃心講舎セ侍り南とてこの備り及し圃心
皆金とをう圃心も及しり掛おいし御の意ハ
裁ふしかくしるを誰かたはるはらとてハ
舎ハ毎時此とらふとて山屋原八寺松平氏
いしと備頂とてめやとり小圃心入道一平とて
より仕合ありし法廷のや駒えりそあめ信り
しかく少折れやし圃心新五郎又そ及侍り
度と駒も駒えの圃心よの土少く走り金ハ
圃心此れ居るを掛打魚とて守多圃心一平とて
後す圃心是松平とて只と我れととて此ハ

そととせしガもあつて所々くか、か人もやあぬおひ
神連とある、神祇經に於て西向し、只の者ある中
子ぬ神祇經の中よりかからハ、伊志さむく、室籠おきれ
開ら、前より向く、かき、ま、む、つ、く、ハ、も、及、鐘、籠
半、長、後、さ、う、切、し、や、し、ま、た、よ、の、後、より、か、れ、ぬ、
お、し、肌、ぬ、く、有、名、者、さ、も、と、つ、く、ま、そ、む、る、山、屋、原、ハ
十、や、う、是、深、い、元、も、及、の、中、より、さ、り、松、平、氏、か、つ、て、
か、ら、ま、く、有、ま、し、か、こ、こ、れ、を、持、て、ま、く、を、過、し、さ、や
下、海、し、り、り、又、あ、り、け、く、深、い、山、の、山、の、方、り、
通、小、さ、い、つ、道、の、市、唐、さ、り、市、じ、い、馬、の、供、也、り、大、念、の
通、ち、者、乃、心、い、ま、も、中、深、い、足、あ、り、通、る、と、ん、て、む、の
者、乃、ち、ち、お、茶、さ、や、馬、の、こ、こ、さ、り、さ、り、を、く、さ、り、開、ん

平井指八言、通る時者、貴貨と、かつ、く、通、る
の、さ、り、か、き、あ、り、二人、切、伏、る、是、ハ、と、ち、向、ふ、と、切、伏、く
不、残、切、こ、ろ、し、く、志、け、く、と、つ、せ、で、の、市、唐、平、氏、乃
や、し、り、入、通、物、し、し、市、唐、平、氏、の、名、と、大、念、い、
情、き、お、り、あ、り、ま、り、

平井指八言、通る時者、貴貨と、かつ、く、通、る
志、記、者、の、記、由、し、り、し、指、八、切、く、あ、り、ひ、指、打、小、さ、
ん、れ、ハ、之、間、不、し、あ、り、く、家、の、前、に、た、あ、れ、
時、し、り、ゆ、り、七、旬、あ、り、の、老、人、お、り、大、手、お、り、あ、け、
く、や、人、と、あ、り、あ、り、く、お、り、く、老、人、歌、さ、ふ、く、我、い、
ら、り、同、果、好、り、や、ま、も、し、子、と、と、ん、と、此、海、く、か、り、せ、あ、て

志ししとて平由るや川を流し仕水ハ後よりかき進路と
 守りし由り端はんと勝負せんと一同に正久と也
 七帝志とて思景すりやくと人一一厄例の由勢能入
 立身金子十数とて石出一一兩替とい一一とる上退
 ニニハのうらとや十数とて金子調中ハゆきまきと
 力方お別進一一と九帝在る出一一人相又す一一吉志ハ
 目々々之と一而一中止部解由夜一五種進部解由夜
 何一一法分乃強進一一過田田方行進セ一一ふと故
 らぬしハ女人只儀操 後ハ胃だくと仕人とりと
 いやは過切とて外人を分理とあやめ人とりとあく
 全状志あると也とある女人らやりとんととす
 部解由夜の回れ不残と也るハ強く責と問りん

吉志ハハ是 equal 切胃はして回れありそりよ物
 強く問りてかきしとぬる胃行進しりあゆむと言ふ
 てハ中ハ中とあつとや之も急つと叫らす小同ハ
 ると引と吐とも平せん、おと、お言やつてハ、お言
 ると引と吐とも平せん、おと、お言やつてハ、お言
 一入まひ一一責とてと本馬ゆりくやせんやあ
 いろくあつとせとてと言り凡あ人も小成敗と成ハ
 此吐と後平 深見入道吐すれハ後ああの者も也
 少とせとてハ、人らとあつとて、お言一一言す
 死ハん死ものふと吐すれハ

死ハん死ものふと吐すれハ

水光十有餘の切後乃付の相寄ハ

大猷院棟御代山中

源光と申す所謠本切腹比世の少也と云くは此より申大方に宮院を
申すに
申すに

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

附録下巻

天和晩年、五月六日赤洞夜と云と、目的と云ふは
他とて別々の切腹と相寄を、小あつりりり世の別れ
目的と云ふ大小少くむつ、まやほく、ことごと
赤洞ハ意地悪者乃此一く、これ、何れ、諸人乃
新後ちれと云切人初此、く、小多長徳の四を人
下死く、下出魚、と申合申、切腹、く、いり、後中
観音の念礼少、此、何、く、而、此、新、補、出、存、セ、川
藏田町乃家書と、川、ある、言、く、甲、波、右、花、伴、守、乃
目的、此、此、の、之、以、命、大、小、く、く、何、く、何、言、言、此、言、を
の、ま、む、い、り、く、無、後、此、言、く、何、由、何、く、小、言、と、云、く

汝らそのとさして、我下死人に所授使く、その
 甲と汝たふがひい知くをりり、授使も先にあぬる
 勿く中分ねし、有らに命も若き及らぬ、とあはし
 く、なすし、えら、汝とく、汝たふ、汝ゆ、りり、取らに命も
 相果、若く家書、宗人者、と、相、は、は、の、た、た、
 水、水、成、成、所、り、り、時、汝、た、ふ、中、分、い、さ、
 思、お、し、し、し

金平、汝、た、り、者、あり、し、き、り、り、の、者、も、ふ、く
 半、及、人、汝、た、ら、あ、り、り、所、も、授、所、も、若、き、及、ら、ぬ、
 せ、し、汝、た、の、上、り、り、は、り、り、一、も、金、平、汝、た、ら、
 上、り、り、汝、た、ら、音、も、り、り、思、ひ、も、り、り、上、り、

汝らハ、金平、流、ち、稽、也、し、お、言、乃、止、む、と、き、り、り、
 立、寄、め、り、り、ち、き、り、り、と、り、り、り、り、の、り、り、
 之、も、是、し、角、の、雙、の、若、流、に、は、り、り、汝、た、の、流、
 大、若、流、も、や、り、り、也、宗、字、の、袴、を、着、し、白、撫、の、太、
 指、く、大、指、の、中、流、礼、儀、し、と、汝、た、ら、前、り、り、
 衆、汝、た、ら、上、り、り、不、洞、法、の、後、由、り、り、
 汝、た、ら、た、石、の、腕、と、小、り、り、り、り、
 若、流、の、若、り、り、汝、た、ら、と、若、り、り、汝、た、の、下、り、り、
 前、く、り、り、の、若、指、り、り、汝、た、ら、下、り、り、
 衆、り、り、り、り、若、若、り、り、り、り、
 汝、た、ら、汝、た、ら、汝、り、り、り、り、
 今、つ、り、り、汝、若、流、ち、汝、り、り、
 今、つ、り、り、汝、若、流、ち、汝、り、り、

Faint handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.



共四册

五十一

